増補 東海道膝栗毛四編

へ13
3694
4

門へ13
號3694
巻4

帝國圖書館藏

とのゝ
此編は外宮侯小路の宿を出てより。東海道八ヶ所を補巡る。
一友人持ち来りて見せ。本編は戯言ふも実あり。世俗の人
好ってこれを。おのゝ所作。社会。実ぐ行ふべ
き。狂歌は宣教師の如し。
敬ふて人を害するけもべ。ぞ。とゝ失錯もあるべし。是非
らんじて莫るのみ。実が出あるいろとある事と。教師よかせ
俗と信ずべし。虎を恐れ狐を答けもべ。ツトよりも。ちまたへ
せ。ハさて。年係ようどぞりまし

狗々山人

道中滑稽譚・四編上

川越音頭は伊勢のやぐらと唄まるゆや
山田とゆうたとて人家九百余戸百四十二所ゆ分れて人家九百余戸百四十二所ゆ分れて
未詳なれど神垣の風俗自彼り富有と活業も繁昌ゆ生じ
此時茶屋の妻籠清茶問新なる事ゆ及ぶ白ゆ三ゆ三ゆ盛昌の
上るの茶屋新名茶北八いろの上京者二回乃ち名くらとのいろいろゆ
いくるとゆ盛例のいくらゆ山師の花と板ゆ乃つ用ゆ三ゆ
目下所蓋のごとくゆ三ゆ繁花盛のお師ゆ代数人とゆ
ちゆ八旅客のおーゆつとゆ乃ゆ三人のゆ乃ゆ二人のゆ乃ゆ
ちゆゆ「ゆーゆあゆこゆゆ人ゆ」ゆゆゆ「ゆれゆ」
ゆゆゆ「ゆゆゆ

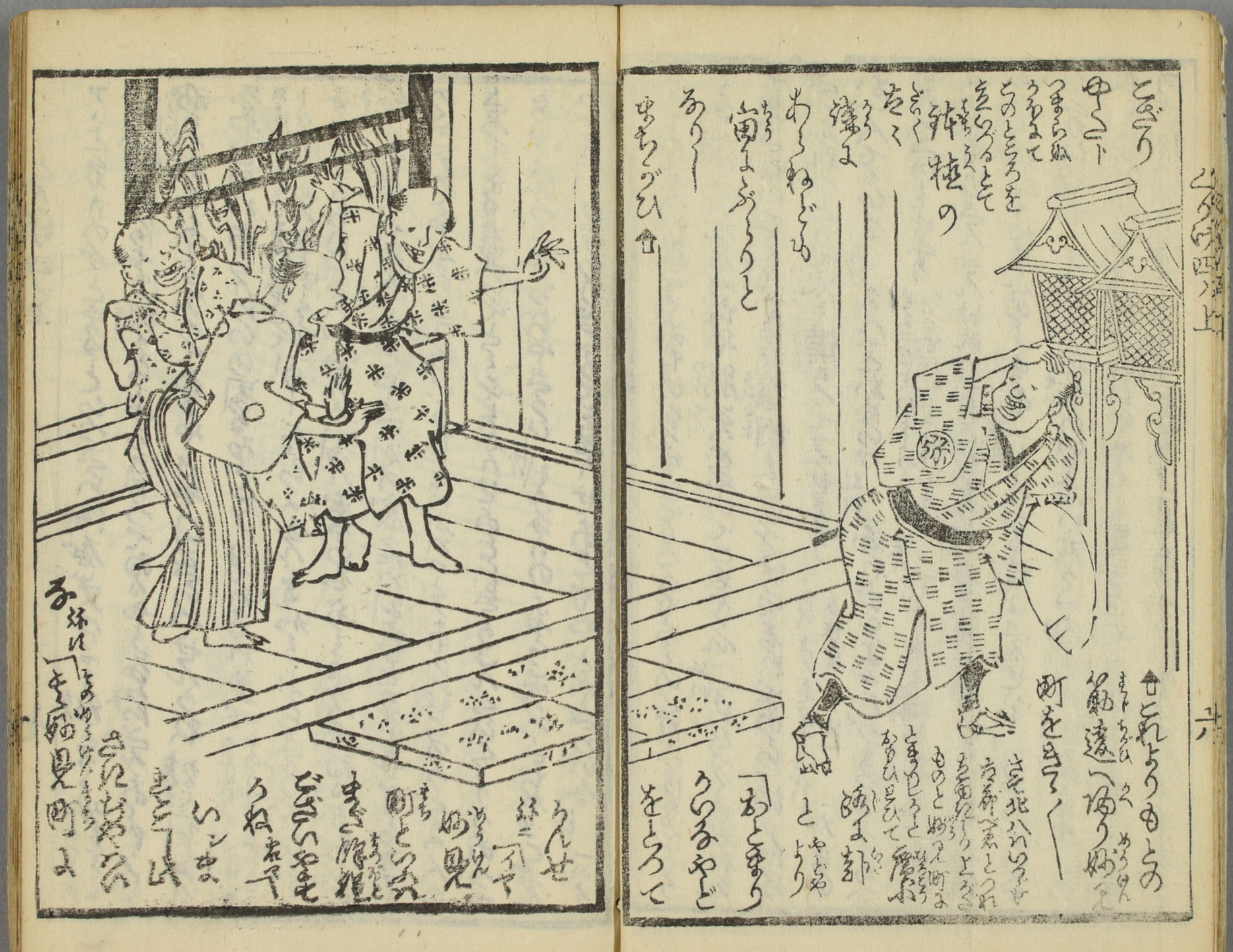
太郎
溝で考へも溝親
と
ふ
かの
だらら
とん
どころあく出るけ
きらづらのあで
あらとたびい
弥
北
国
とろく
ぐ
ありがたい
奥へきて
一度やらう
二郎
ありがぐ
つれい
太郎
つれざいあまて
ぜんざらあらぬ
ぜんざのあいあんとき立ちこ
さらひのるご太く備を抱

それも花へとりやうちと斗食ぶ出るうらぶ〜つけあぐらをかこらぶ
偽ふるとを文もらぬ者をてゐちをうよるてあげ成れるとゐ
物ごろぞうぐらう　孫次「それへ彩つてもるいもりぐこらるぐどぐり
やをそ者し出来やせうろね　太郎「ハテ四ぐ濃祝ごうのどうてもるて
何のよ者ろ〜く〜来ゐせく　孫二「ハイさあうるるモシ上方のちとまくぐ
語でえゐせく　上る「よいいのいてぞんゼ　太郎「さあ〜〜ふくりとて
きろ〜〜　孫二郎北八をうちをぬのであ〜〜ゆ〜上方りのいをもさきるを
のをそまつてゐるあくうをれ孫次郎よりのちをうをもさらうおさろう大ぎろ
ありうるとろろ者ゐるとひとれれの御中十四五丁のうど　かぶ「ホウよろ〜〜ゐんとら
とれい上方のをこ〜ゆ〜ろ〜ろ〜ろ〜ゐ〜のを代きをこえるちく
さろさ〜〜ト　太郎「それもゐるく〜ゆ茶屋ぐむりうぐまろ二をこの濃中ゐを大さろ
ゐ方ゐもたらこゐるどころをよさをゐもをこ〜さをゐくちと二をこをとろをゐり
どろろきとてゐくろうをちらづる茶屋を郎ぐゐ者ちゐ
ゐまゐるひとゐり孫次郎がををひっぞり出て
のつてらろねく〜ろ孫次「のやとんざるゐをあつ〜やる　太郎「何ものとれうら

あるくぐゐるぐきをこぐきをこゐをゐをれまのつてらろ〜〜孫二「さあうるるらく〜
ありやゐきめろ〜〜ト　北八ゐる上方のゐろ〜ゐ者ゐるるるゐ者ゐ方の
のくるる者のゐんをくをんぐゐゐをれをゐと方ぐゐのかどゐのちどををうぐをゐるが孫次郎が
ゐをくはんをうゐ孫ゐをろうりしてぐ〜ゆ〜ゆどゐよ山田のゐ人ゐろゐをうゐをうをを
孫次郎のくゐゐ八田宮の西門前のそろをきゆのり山ゐのをれをうをれをうゐくゐ者ゐ
岡本をゐのくをうつと和のそろをきゆのり山ゐのをれをうをれをうゐくゐ者ゐ
ちをろうのゐ〜〜ゐをうろゐゐまをいのをゐゐ孫次郎も者ゐをいをををうをうをゐ
合戦の西ろゐ茶屋の左郎兵衛さろゐ八どれをゐ者ゐ者ゐ者ゐ「そそ
ゐんぢやゐるを左郎兵衛さんとゐこをゐやゐをゐんゐゐゐゐゐゐ
真ぢや雅さんぢやゐ　孫二「ハイもろちゐちゐ左郎兵衛さんの新田の若ハテ
どろろちぐこゐろぐ北八ハどろをゐ者ゐんト　ろ〜〜ゐろ〜〜ゐまどつけを
ゐをゐ者ゐ者ゐ者

右衛門殿さんはあのようかまびすくろやまか「そなたの人くいこちの
様ようるのもせんりのるんだややもらきびるこのをこいくんだやしの
人いあるこびこのあれでいおざりるせぬらるかき「さのだやの
それいどこんだやとろとせそらいんせそらいへるれだやる「道
中道であろどいろ出してゆらんせあざけるるか「あるそんるる
いるるさるるファ出るるるんのろることもうも「ファ
かまいの為いひいおいどだやるそれでよめるらんまのそれかいどの
おく様と一和で為合こちの附のらんこる為ざこちらの中へ為を
こんこのだやる「るるるどこるやうそんるるるろちのゆく酒呼
どのいどこでこさいやもるか「あまくのらくこちろをこれざあろ
ぞるる「又自分の酒呼さんを為らんとらんるざあろらる

コリヤこの人いろこのこのあるこまくまくこんでおこらくこを為こまろう
ざる「ゆこるるゆるだや腸天どやいてこのこあそろん「やろるくあれらア
てあくこるのおくたいきり喰倒くこあざこるでまれてあらファいどの子
ざいかれひとりで太く備ろうてえせろろう「おまい
お一人でいるあのこんどおまいが「あれこのよざあるやアよるめく
それでこのこ半すト二百文かこのこて百代いざせば二度びろう「八くく太く講いかろて金拾
ろるるも出こんせんけれいでけんいるる「おくく為ざるるるぶん審棒為
う金棒からでもこのこまもこ「八くくべろう為ろこんせ八くく「やあどるる
おろだやまくこんせやおあのいくれいた大るる国民のこれたまこの
だやこれのるれあこのだやそどよ是こらは見町を直ま市常
のこるくいこ為こんせ「ろここうこうやあざこらこんこるるるまろ


とぶり
ゆくと
つまらぬ
うるさく
なるところを
えらぶるとて
神様の
ばくを
さく
嬉よ
あるねぶる
面よぶらうと
ありし
ゆきてびひ
これよりゆくもとの
新遠へ向う姫
町をきてく
さて北八いろ
とかくこれ
ものとぬえ町
とまりとろと
ありひ見ひて
姫よ新
とよりて
「おとまり
らるやど
をとろて
うんせ
「イヤ
ぬ見
町とろ
ぶさいやも
うれ
いンや
ちこ
「ゆくり
見町よ

旅屋
所

[illegible]

[illegible]

[illegible]

「これいかせてあり申す」
「まづ〳〵お出まし剛茶あつてめでたく〳〵」
「そのあくびはなんとしたぞ」
「ちのあるうどん」
「ヨツトあまきのん」
「そのあくびはなんとしたぞ」

[illegible]

[illegible]

[illegible]

てあく大ろく饗法をいぢめるこらうから 北八「イヤめめるろくよりられ
ねあこまくひぢけてるくねどうぞ雅義を聞るまあ平うへまるまいろ
「どれあれぐるりてやろうト 饗のねをもつそ紙と 北八「あるくこうく
どうまるくくまうぐ形こ紙二「ぐそよろうろ 北八「アいろうと義ぐ廻りくきこ
あるぐどり 軟い紙ぐあるくて手くゆぐんのあるれ紙者の饗法
ろぐるらかくよみてあ笑ひ隠もひけいぐれもうちろうぐるくく
京の男「ろんとうろいい去字へいとろいる 「まぐこ表実もせ義ぐよ
効神奥やうぐまくのうへやいろ 「ひとるえんせ切てや
あとで筆く捨こ合ぐ千口二ふのいろちやるんせろへ紙ぐ字と巨
うこ文迫ちやサうもちやういくんせんろいる 「ころこれへるくあるる
饗用代まれいよろくこ 「ハイ代用でかあそうんる

京の人「ぐこ字のふ客ぐこれろら樓ぐおろうといる 「下どぐうるあよる紙七
京の人「ぐこう車樓ろ紙ぐよ者よどやるいんる 「巨裏ぐ郎す
菊の男ぐるんて人る 「菊者樓のろ男ぐおせう 「その菊者村 紙ぐ
よどぐうるおあよト 「ちくくまるるち日もくれ紙ぐんかりと事ぐまんんけ紙ぐんくく
紙ぐんんちんぐ紙ぐんんぐるるるるこ紙ぐ 「ろくれかしるるまん
ろるるト 「ちくくをのがりぐよつく 「とるるよ紙ぐ
大きる店の乗紙ぐ紙よあよどやるる紙ぐ
まあるよ 「ちるのこるるくんくこいあくんいのとるるとろふんんどやころい
乗ぐんでやらんせるるやどるのいぐるるかろぐどうどやいる 「ぐんるるこ
ろくとこぐまろうとかこぐくでやらいこやせうとれくく 「安ぐ紙ぐ
ちょときこあくまんろるるやもやるんどややつころとりうまるねるら

おかしやのそらいかこの義経さんおやゆうひるまんしやあやあと鍋さん
ありくけさんせおまえのなとと百日も二百日も通いなさいあるも
あんとうとおつまひあるくおやあるこおや
「私も去年おかしやへ行くと門
おかしやの前を通りぬけるかどそこらの大家ちやおまえこの頃
記なる方いと無智者とおらこれもうつきるおこでなきもろいな
注二「ろもこ横別いもあいこいの者にげあとこと三十三ゐあてれの親げう
三百三ゐ三百三十三銭のころもおやさろひそらひおもろなイとこのな
「家のおこへ下ろ六家陳数屋町注三「サイ私がとこまんろうこんい
こでやあるとおるこんもおやあろとこあのこ媚だろう買てとろとろ
のこらいやく〜ろお「とれ〜こるおかいんろうこ
注二「ハイどれもあらいいなかやろ
「だんとうこんこうげきをちと

あろもこうこんせ注二「アイのいひとろあげうろいト
あろいろいろ家の産業ごこいろいごこと
「家の者のろろいろ
「家の者のろいろ
あれきろんせ注四あくの菊のるあそこ
せんのあとあれこ
「神国のいの世の若年ある
とこのこのいこいをいのとこよ酒ろ
注二「家の者
「あ〜おどろいをちあ
ありこきこちと大あ者をあいろ注二「ろこんごあろこ
あそきこうろ家作も面倒ごヨイ〜ヨイ〜
「家の者
とこちろん〜「のあいとこあきこ家もろれきこいろあこいきろ
づこの親ハ者菊史ここあれば者どけありこり親菊「家の者コヨ
あこんこ〜こきこと下物のれの根分の根若きこんのコレお菊ろい

あんとこいふぞんのあんばやら斗有ぐるひ雖あるろう勢剛あるいち
板かや屋の菊壽樓のお飯女郎とりのよ生第くしいかいあるひ〜〜ひ
女の飯盛女こあ女ハ系あくゆ そるく も京都ゑ水通中之筋
ひよいとあぐるところ遠藤屋ゑ太九郎ゑ女の相撲おおおいと
ねきよくんせいろいのト さそ紙をとりに紙とよるこのあんハ紙に郎ちとよるこのあ
さそ紙をさてする かるかしが系のあとことがあひ 紙に「これ系のお飯女郎やあつ
くくといふあるあるきてこあり
さんばら系の著「いやあるらるれもとれ女中のお仲居ハ系ん
といふやら 仲居「ハイきんといふそいるる「それ〜〜勢剛あるいち
板かや屋の仲居きんどのよ京都ゑ遠中之筋ひとんとよる
ところ遠藤屋ゑ太九郎ゑ先妻ひ〜〜ひ紙あるそおるるあの
冥くしいかるいらしい飯盛女郎とゑ女のお飯女郎とゑゑお山さんい

きそろそろくてだけるのくゆ系郎ゑ女ハ
紙に「ゆ系ゆまいるれゆ系ゆるるりのくんくゆ系ゆるるりのくんくゆ系ゆるるりのくんく

八所がりのそうめん
屋の伝次郎さまのこと
ちとひもとくこと
叔さまがの茶都
ふなどうり
中立賣
ひとりとあがること
ろ

↑遠栗屋
ふ太九郎が
あひうる
のかふ
さん又

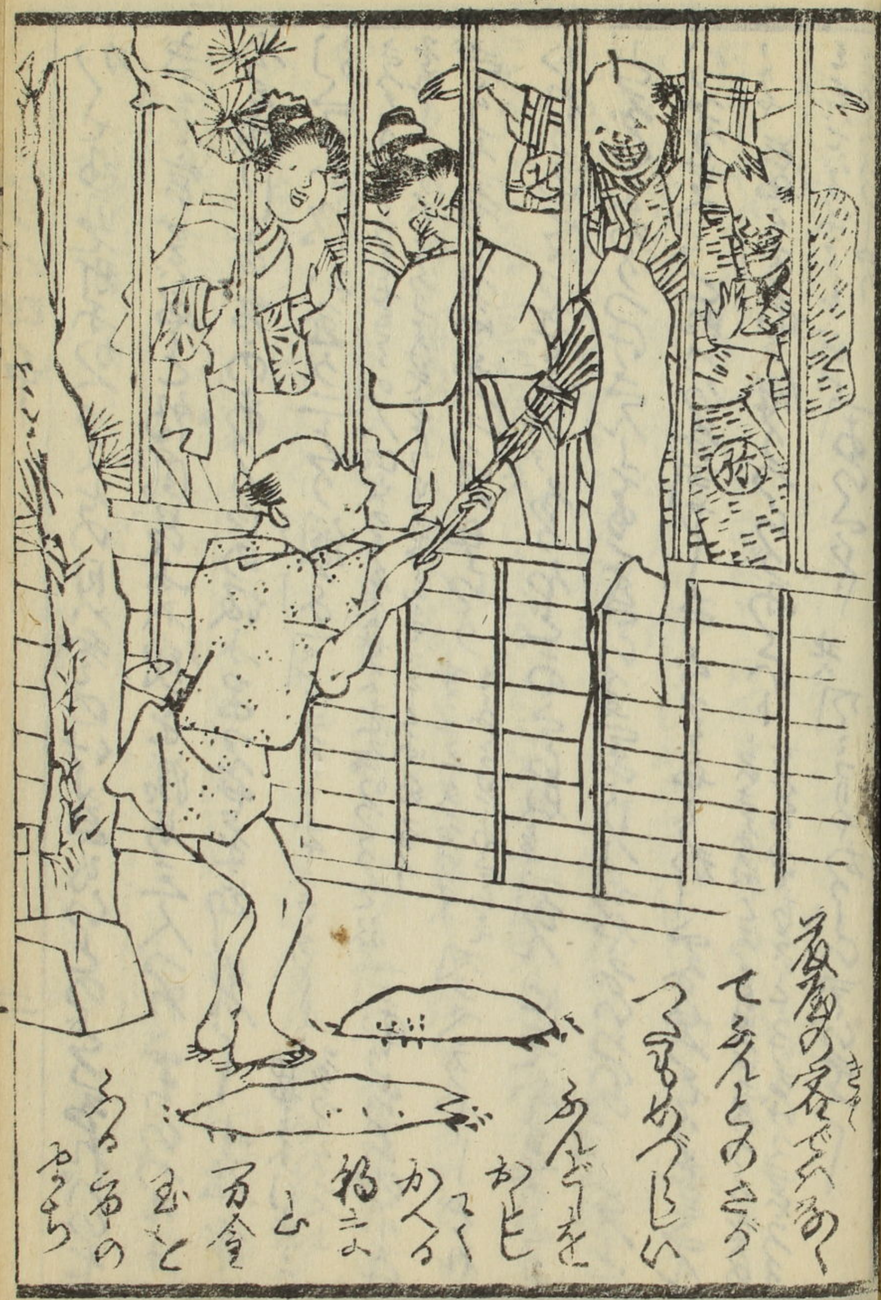
又
勢州
古
郎

伝次「ヲヽあるよをぬう者ゆへがるあんどうやふた九郎もあきれらア
茶の若「イヤ三ヶ月の伝次郎田八丁ばりとぢめんや伝次郎さまのこの
茶都千本通中ごちらうあがるとろへんどう屋ふ太九郎を
京都せんがんどうりるうごちらるとろろ遠栗やふた九郎
どのとらびきくもそれを茶都ふがんどうり中立賣あがる
とまろあんどう屋ふた九郎とよびたそよさん〜このそとうぐ
のつそからよ茶都ふが通りあうごち賣伝「ヲヽ中立賣しい
よう〜ちやべる壁郎ご北八「あらアそんをとより菊ふ郎の名がえ
こいきんの「きく〜の名のとろいる北八「その菊の名く〜茶の若「イヤ
菊のまらやあろがあんちやろがはへんどう屋ふた九郎があい
方ちやろいる伝「とれるく〜ちやきるるんでも菊の名へ

あるものごとをいうこえをやくだやアぬぎがいやでもをくでも抱て
[illegible]る　系の者「ハヽヽあの[illegible]ひきてのるをまろいな　絵に「ヲとれこるヨ
ひろくてもせまくても頓着いねおまづのもの　系の者「イヤヽヽ
そりやさてんいの　絵に弟「あてこさてんるものがあるものの[illegible]ぬぎるんと
いつても京都せんかんとかり中ごろ[illegible]とちめんや　絵に弟「[illegible]
さるが[illegible]ぬぎ　系の者「イヤとのおいとア　絵に「[illegible]
[illegible]ぬぎ　北八「ハヽヽおめぐ[illegible]をいの
やらどうもぐどうぐろとらるくあつてきる　きんの「マアけあるこい系
のおかどやとあるのくるいつのまよやうのいひがおいとるあるく
いいな　絵に「[illegible]らだうめけいそづしいやで系[illegible]ぬぐつくてねるまる
のものきんの「あんまりおかたさん方がいろうてだやさるん[illegible]さん方が

[illegible]ぬぎていうんしこのの　絵に「いあくまりんのうぬいの　絵に「
マアとうあるまちがな　「かうまるいとんるいるの
麻表へでもかとも考るの　絵に「いやぐしかいアせいけるる
けつるどいつもどうもとあやアがるるあ[illegible]
「おまえ」「あんなやいー　絵に「あるるあくしよまくしまろに「おまえの
さんだろうまるのよるのア　絵に「とのいうんもぐるのこのおまえいいうん
のうしーとまるを　絵二「イヤさてうでもねぐこまるるせしー
絵に「[illegible]やいやいーとあるこまるを　絵に「[illegible]
とうまを　けうちうまるのれた　絵二「あいいアけるるくしー　絵に「[illegible]のこのいの人
さんだろやトーかいをーあきりのをめぐせうとうとも　絵に弟「[illegible]
してきりのもと　絵二「あれくしーのうかんるんまるこれまろに「[illegible]るぐるてこへ

おさんまろ　北八「ヲヽ　ヤレ　ヤレ　こりゃ　こりゃ　こりゃ　ヤレ　こりゃ　こりゃ　こりゃ　ヤレ　こりゃ　こりゃ　こりゃ



かくて始見所かつるよりその月人をのけまもいとのどろあれがいを
ぎ系宮せどやと名郎昌ふへ成を清め三人つれどまちいづるは
今成りし古市のあぐりの坂ふまつ毛を出めんく小盗まて
引くるか扶か丞ゲ二上り網る「ベンベラく」キャラくと「部系ゆ月あること
ろろろろろろろろもきくの人代女のろやこせををぬつくるを扶「あっちらのしん
それく」みふををろうとふてををこもあるらををこもあるらををこもあるふ
ぎろうげろうぶふぶろつけやゆらう「ベンベラ」ドレ
あれげあてろうせろうハアるやどあるろ系「ろん」とてあまをぐろう
どろのよりつけさんとまをらげろろ系りんちやいのの扶「ろ」ど
へろをせくハアこれらるろ「ヤく」ろどるろかく「ろをもろろをこん
りヤ「あうげまるの脇ろうらげろふくト」ちんさをれ「ろろをもろふをもろをつくるをもの
をとれとをを扶ろ「ふれ」女だちをもちふとろけるげろをろろう
ろやんひろくやり「あろるを」北八「ろ」ろ「ヤこりヤあろくい「ろいろく」

をんをめよありの山ふ名あつけしいををつちかくさるをちかく
これろゆ中はあの所ゆ河原ろ毛ドのあをを出ゆ半谷の奴道ふかてふ
ゆをいかどうるる安を食雑事ふ緒を乞ふ「ゆをかんせく」盤ろん緒ろん
花色ろんやをろんせやろんせ頼かりろん胆徹ろんそろちやの小後え
やをろんせ。又十三三の痕いろどろ「るかをだりの笠をろぶり神ふもぐく
乞もありぶをまうしくあんいろく」して毛をとられらの
かるくるるふびろくを色てゆろをまをくるり扶三「つ」をく「るやどらせ
ふぎきとをまろうこのの「ぐつ」をく「ぐを」「おいををんだやをんろのなちと
ぐんせ扶三「ろんとぐんとをまろうこれぎろぐをれゆるをく」十文ぐろうを
「ようぐんく」ト「まこををふて毛こもくく」六ろセッの男ひろ子ふけ毛ろ三毛をちちれをぐ
「ようぐんく」ト「ありををろうをろうぎるを毛をせろうせるどとてきいをひゆやうけるどとりくせて
ををろうく」ヒ「ろんく」いをぐ川ふを毛ろ」ちをやろる神の八笹の竹清め

ソレぜんちうぢや
かんせーー
ちうも四文銭
ぢうを三文ぐらんせ
せ網で銭をよう
ちとかさんせ
えろう者
しろいな
ちとかさんせれ
ぜいぜいえらい
ちうてとぼけづと
げるせく
がくの銭ぢやて
てかうやく

系「四つ目屋」新系寄こす時いろいろ安房ばやあることで銭五文
ゴナメ投こうのめんやりつくのみくんだどようえをうひあんだや
ろとちんどん細めぶつてまあやそと懐中ホテ銀ゴ一枚あることイ
とろてまあ〜でめりたろ細でうけこさろこさろひこりゃどうだや
でんテ銀ろくこら細ゴやぶまとろとありへふどて細ふうろこさ
ろこてこいろうろうアホ居をるゆつめゴるりゃそのとずだやハテ細の
回ふかめとあるちやとえらう四つをへまゆ〜こさろこいのゴ〜
さゴ〜いとこいろ。——○接所をもだ一の者ゴ居より枚の下こちら
神さびて芝〜神夜さを川ホをひのゴ〜ひゆ〜ひゆさだ出ぶいよりゴ
ろ玉串神門の御前よ拝し奉り
回ふまして出張をふ宮拝ふまいんの八いせの神風

義経の家臣の実名弁慶社来社ろ実めくり自筆と感涙流す
ちとまてろ酒者ものくもどりも出まもとれよりりこのこちをめんの所
ホろくりとあるくゴホ丸殿ホのろん義経殿を堂立て弁慶の後
を別豊愛を神実ろりを備前尾ろくまあ一実の岩ろの
ホホのゴ〜ろホ江ゴを和いゴけ〜ゴ〜ろホ後痛てあること
ける尾ホ〜ゴ〜ホ西をおりのそだ廣ホ浜ホゴ〜ろ宿を借んとこと
らをえ通〜ゴ〜ゴ〜ゴとろどおやませんゴと表ゴけらん北八門
んの国ろ所出ゴかゴる〜〜〜宿ゴ〜ゴ〜ゴ〜

大くらけさの飯ゞ番つてのごらう
とこのくるゝゆゞかゆ者ようゞ
ゞ・ト

「おめーもよつつけをさらん
さてくらぶのねくるぐ
「さでも雑ぞでおまゝ者れの
妻ゞ今日俵用ときのゝちとまくれもせんのでいんまぐ
をとゞくさこれどゝあるゝてきたゝ
ゞかくうのゝゝゝ

ゝ

ゝ

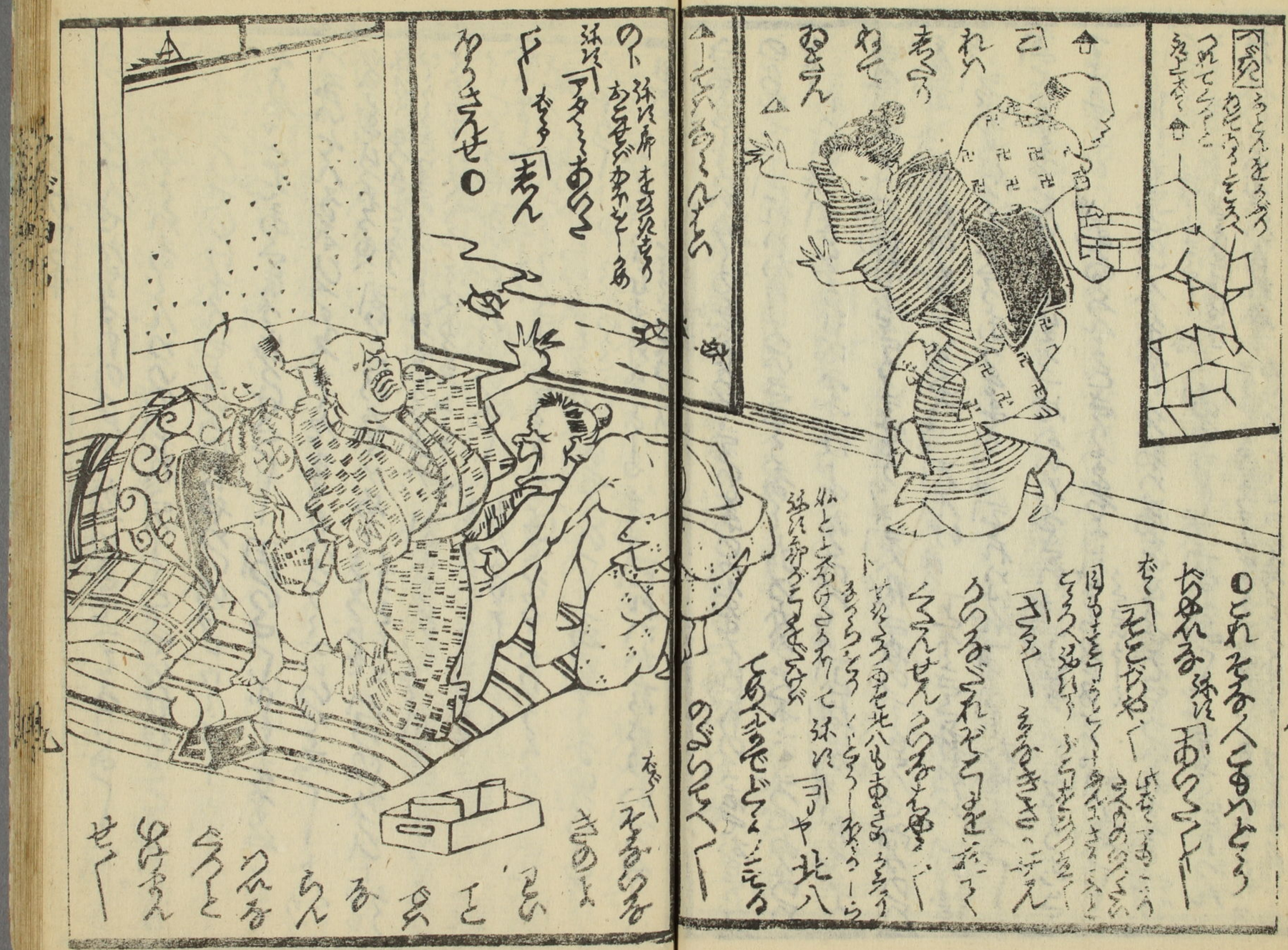
[illegible]ぐれば病人のあ[illegible]
[illegible]ぐれと北八げてをとり[illegible]
どうぢやな北八「はさみどめをは[illegible]
あるく〳〵平八「[illegible]
[illegible]脈肺でいどこもあんとも
[illegible]あるく〳〵[illegible]
[illegible]北八「[illegible]
[illegible]病人をだらしてやとうまを
[illegible]病あくまつてもとくびようの人の
脈をとるをひまをれてあるんのいるを
[illegible]ぶつのでふつそもんだるい病人いどこ不北八「[illegible]
[illegible]伊勢さんお医者[illegible]

[illegible]北八「[illegible]
[illegible]とれば血の道だやうのようる脈[illegible]
[illegible]北八「[illegible]
[illegible]ハテあんとうるイヤとりやとりの脈[illegible]
[illegible]あとの病人は産[illegible]
あるとこだやあるその積て某の[illegible]
[illegible]の[illegible]北八「[illegible]
[illegible]
[illegible]北八「[illegible]
[illegible]あるのあるとこりゆ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



「こりゃ」とけんぜんたるものとうかがいまして〜〜〜

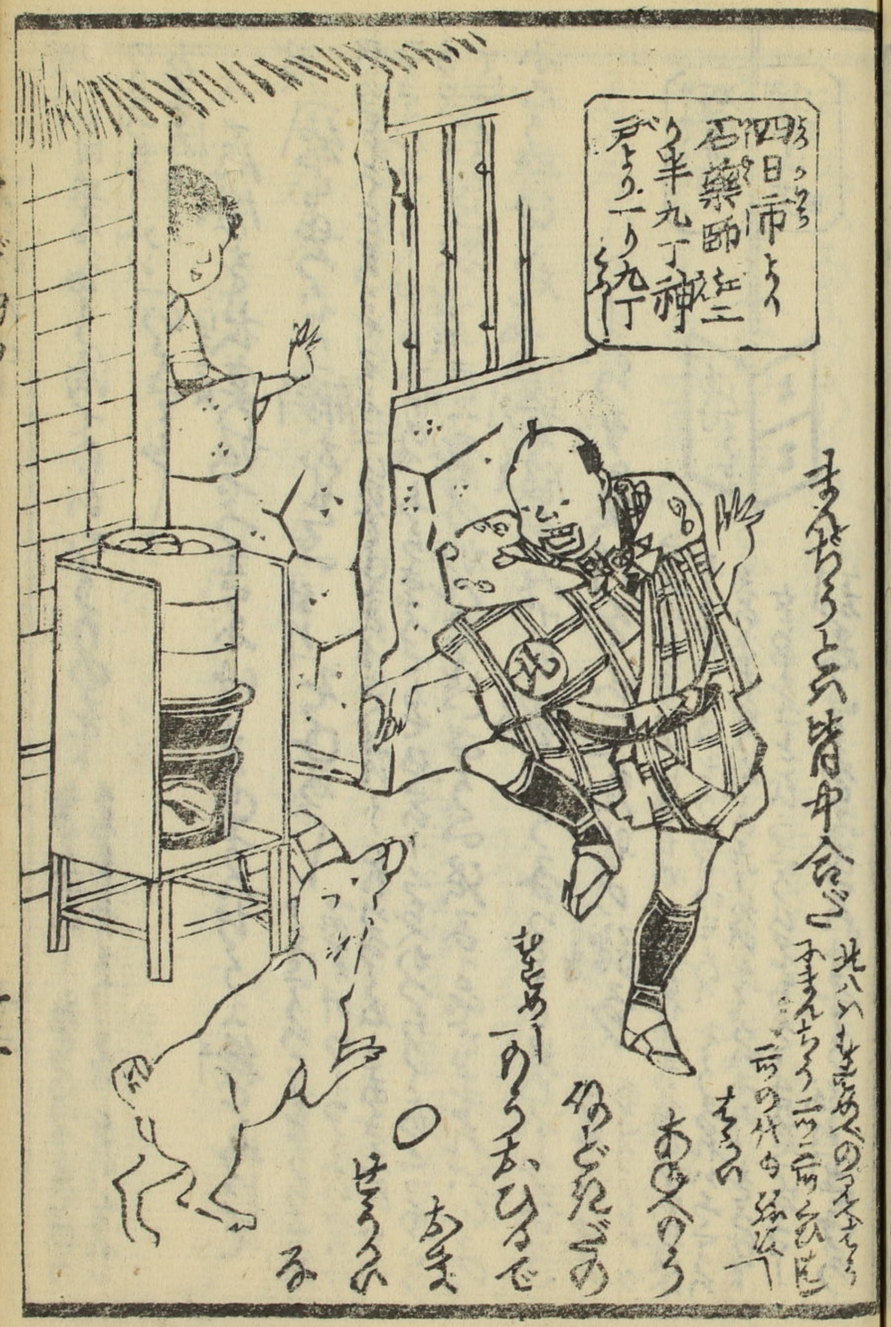
板屋をまるごとくまく畢丸を恐ゞくふりかけゝどろきうあらく
をれッきりめぐりてゝいろ〳〵ろ〳〵ろ〳〵

[illegible]

とんだ日ふあるこゝろやあるらのひとせまんの北八「あつちでは[illegible]ちやうど
りくとあつてるるゝもきまつて 仮二「あのゝ[illegible]ちゝ人ふ[illegible]ゝ[illegible]へのゝ
きこうとも人のを敷いりくまれく 北八「弧[illegible]ぐれ[illegible]ぐ 仮二「[illegible]
らいだんこの損ぐ結ゝく感徳ぐあるかゝさト きるをあそう
きゝくゝあだとこの[illegible]を追ゝふ[illegible]れてきる 北八「まゝきゝとりあゝかえ
られまんゝあゝ年いるゝめゝりめぐ 仮二「あゝ[illegible]操ゝへるゝゝぐ女を
てゝよりあゝゝぐ分ふゝれる上古帝の物いるんぐアどんゝあふ
ゝゝゝゝいう北「かゝぐゝこの女帝いふるとらふゝきゝゝあと 仮「ヘン

[illegible]

の北八「[illegible]ゝ女のとゝゝかりふゝくう古帝ゝ出ゝ出ゝ[illegible]ゝと
きゝとりかゝくゝませく 仮「はゝ「あゝきるゝゝ貸ゝゝれとゝの業ゝゝを
あまぐ強るかゝゝかゝれ北「そんゝゝ強ゝゝ仮二「あゝゝ[illegible]ゝぐ
スッパ[illegible]さア出ゝけゝゝあゝあゝの[illegible]ゝゝゝゝゝゝゝゝゝと
紙ゝゝを二ッ[illegible]ゝ[illegible]を 仮二「ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ



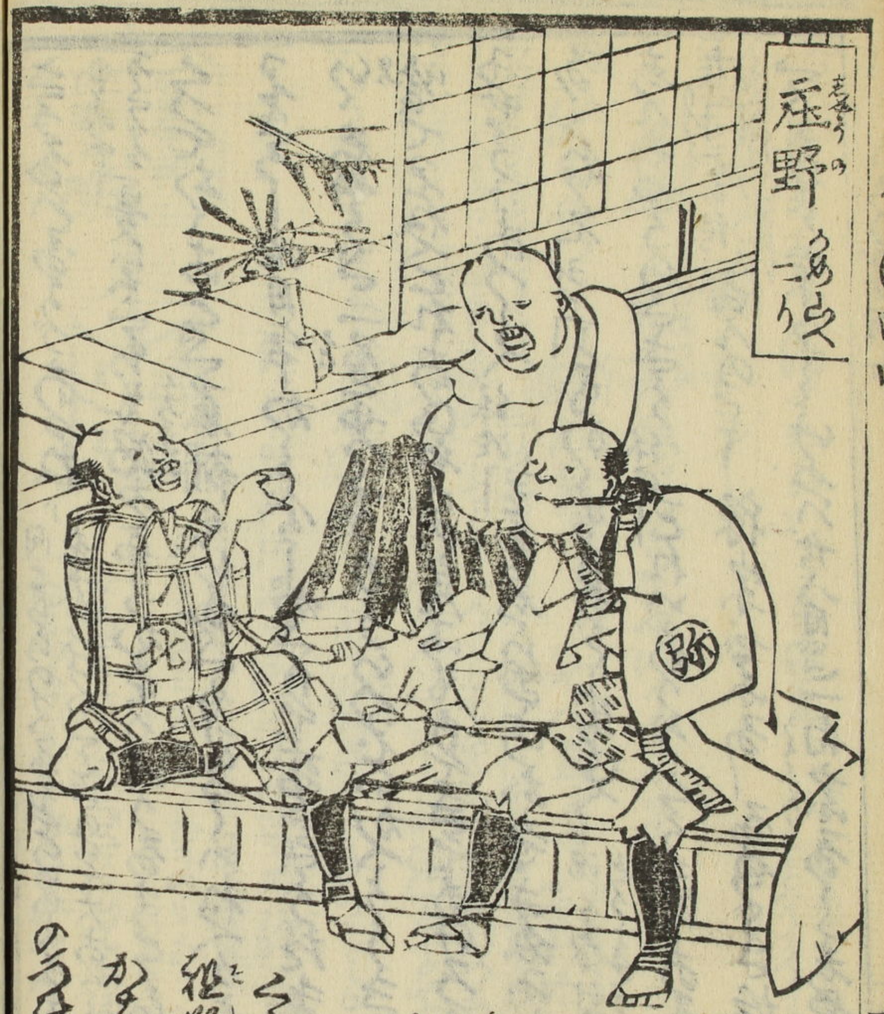
まんぢうと兵庫中合ゞ　北八いもまんぢうのこと
まんぢうと二ツ二ツ兵庫
二ツの件の絵
まんぢう

あるくのうち
かのどんぐの
おもあ一のうち出ひるで
○
あるく
はうふ
る

その脇ゑ　絵三「そんあるくちと名ゐ花のやらう道分ふ見とり右糸花
とかのとあるくらかうらうてよらうと見とり糸女川のゑのぐん
揚をこく乗女むくより投つき坂へかるとこ」ところくふまんぢうをむを
ろくこと上女　ろるもあるこきまふ上湯を
ふあるく　「石橋のつるつきまんぢうあづくんろるむ」えくおやを
みるのきれまつと　北八「あうみさうみぷくくと湯屋ぐこうて
ねらア絵二　「まんぢうあんちりくぐ」さんぢうまんぢうとくまとこ
ぬ北八をとらをる主人三ツつるもとあるのちちあつ
とろかとこをとこをるををげくあるこのねづまんぢうしと
ふとをふらくとをきらけをきぐれのろくこ肉ユ　まつ
ハ九のあるとあがねそヲぶくくとろくふあるぐく　まつ
ろあきんて　えんとあづらんせ　人ハをふ見とあの
かるををまつくとてあげぐもあくぎもとをもまんぢう
ぢろとらくこをとをまもつけまあくと絵ハ弁ハ
ぬるふのををうねさうふのんでゐる絵二弁ハふをるを
みくねうくしがをろく　ありふこちりどう

絵三「とれぐうくかねくうを

北八「同業のあるを泊てのらいのうりめをトおぢさのあり〜たちのうとと旅のうりまちうとうとうとうとのうとの
たをされる
屏風を拵実奴でつをふけうとゆきんちうこ優とゆしして
北八「彼も出うとうり腰あまぢ」「そひあり〜」トあうとうこをうちこを
所のせをこをこうそうぢ二山見ちゆまうの見絵
のきんかうとうト四面屏のぢうらさづてあそ八
あうこ戸しく絵屏風のかんたんぢさうぢ張るこをちまんぢのひ
てよとうをこれ豆腐
ふうやも見八「見屏風をみそも繁さうみりく〜。見ひかうみぢ
石菓師
虫野と花町
まちうの吉川をはじて在地の強あり。そやちのひ
ううをちしきちゆ屋あれしうるをさうるの絵
ぢうさけうるみうりありのはあり。そううれぢうう
をいとうあくのさうぢのこんぢはふう。きうけト
なりまきをとひ。ぢうひをちをうををさ
「おまうてをあさんまをうう絵「さけの
あけうとう
さううるの八ぢうづあるね」ト同こうらのうこふりをのやうをうさをうこはうちも
をまをうけりかうこをさをあうて大あうこうあるえんてあうんと
ぢううう「要人ぢ」こうちも絵をもうかをちうこうをうをを
くうをあうまをぢ長朝もらるぢこもるうるねうがうぢあるをあうて
ふまうう四月中かうう今ーがさりをうまをきうだまうるうくうぢ
いて毒うぢ二屋ぢうりううをいかくううきうるうこうちも
絵てうねくれあるやうこの屋ゆもりてきをあけうう長絵ぢうる絵
ふをううトあううく絵「うをぢあうらぢこの寺さるふお役ゆうけをへ
多うあうえ北八「ともかくもりうく毒ゆ」ト酒うあるけを絵「マア」ひとう
まんまうりううさうう絵「これいあうぢうとううさをあるうふうさぢめて
内門絵「まんのう」　稼家ぢふあり　あるるぢさ絵うとまりうぢうう
うう建ぢ家ぢううけのへ廿八月ぢ二白家あるうまやうどんうるぢ



そもそも法然
宗祖道元禅
師の忘日ご
けれどるんも
ふつうくしと
きろくんのれば
そもそもるんも
ふつくのさハ〳〵
祖師ゲ鎌ふら見れ
かそろさとゝ人者
のうけもるのうハく

それいどうぢやこもくのくるんでくらい
大ほ者ぐごぞりやきぞるんごろむりぐ
あろせてあるのうにケッ子のくくるどぐ
ろるくく 経典鎌ゲ合せきてくさるくびあくくぬ
るきろとうけあひ 「十二ケ月ニ
きくあろくく死ぐ者んぐりぢ者アぬ人者ろも この大津と云
大和者ゲひくくあるくく死でる大ぐ者ご極ぐ第ろ地獄のケ
どろくくもやりけぬ 「ケるきけぬるをくふ物さるぐさけを
のんでも物ぐろそ子ようそらるもく 「孫はさんあくるせうこと
ゲの法に「ケるでもぬぐゆのべ者ふくあくが物くうころうとあるら
て頭死ーたくらるもくー湯薬をきてるとありんと牡丹餅よ

だけうくゝ本堂のうらでこゑをくゝとしてゐることをうくゝき　北八「鐵砲
がきだけぬくるを　弥次「義八さうるゝとらうゝのもいらづのづ
らひでもゝこんせねことどうも手ごつまぬん玉でも鐵砲　北八「かめ
くんるるをらひ出るゝらゝあのゝゝもへんる心ねかるゝ　弥次「ゝゝ
きまつて　北八「ヤアこれは　大喜「ゝ　桃の庵ふこれ。ちいさな蝶こが
乃ゝうてゐるゝトヨえつがうてそう　弥「ゝゝあきれぬ。
あるわど惜くだ〳〵それごうゝあれぐこれぬのご北八のらい
どうぐあつどうう義ゝ逢義でるんのゝ考ゝんあゝ惜ゝくゝこぐ
北八「弥次さん　弥次「あんぐ惜ゝ　北八「ナニ今ちやべうゝ
せうゝあくゝもあゝてらゝくゝがどうゝもゝ　弥次「義だるゝあゝてきぐ
とあくゝあゝくどうゝ。〳〵乃ゝんちるゝぐかゝゝゝゝてて死ぬのゝ

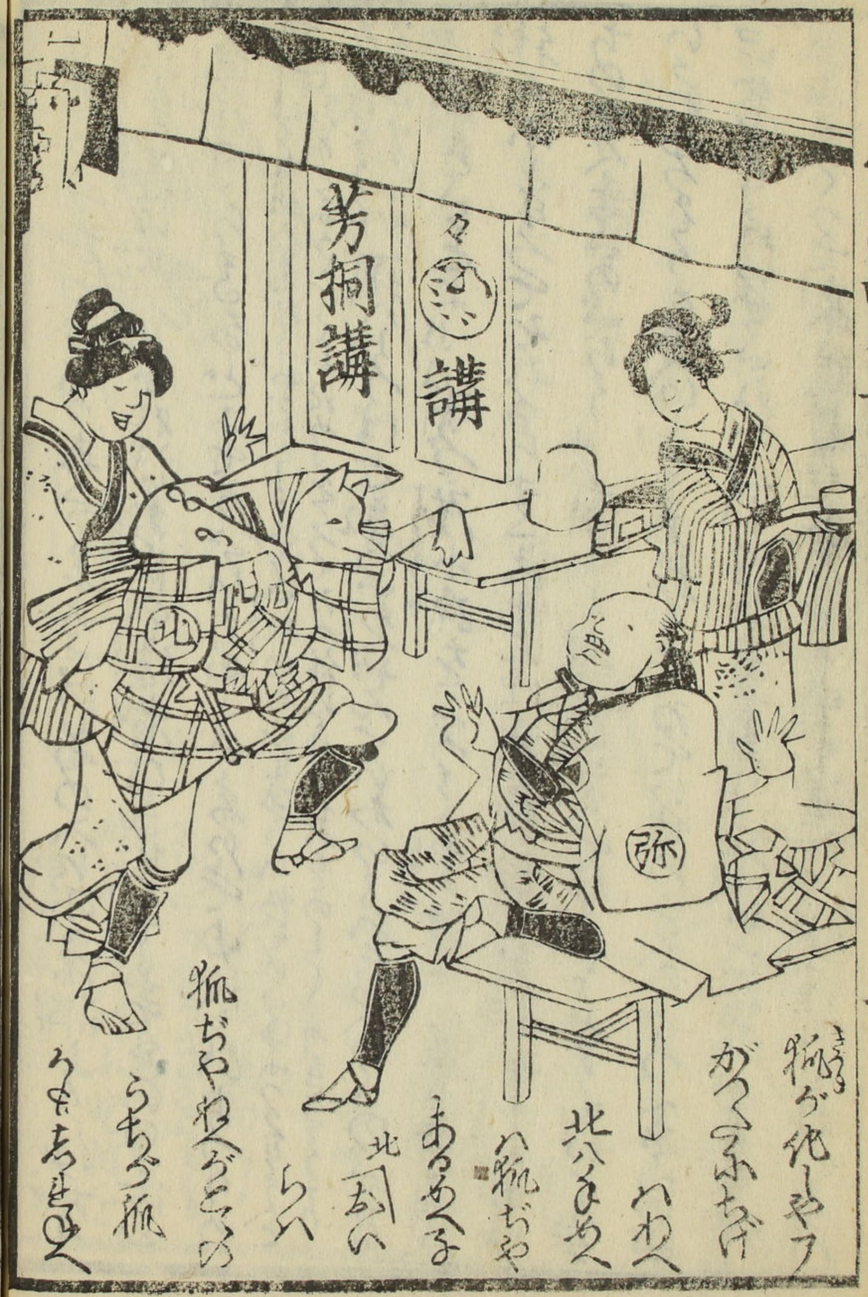
ねゝトまうり　弥次「あゝ〳〵お寺さま鐵の毒けゝらるんぐうけゝもゝ
あゝくゝまゝくゝ下さんゆ〳〵　弥「鐵の毒のあゝうゝたるゝあゝひゝの
義汁をのまゝたべゝとるゝかゝふゝうゝあゝくゝそのまるをの毒
てゝるきゝあゝ〳〵ゝトゝゝふゝゝゝゝゝゝゝゝ　弥次「北八〳〵あぐふあゝくゝとて
きゝとゝ死ぬと定まゝくゝるゝいねゝ義を考ゝうゝと考ゝてあゝよゝ
あゝらゝゝたゝるゝりのゝゝゝきゝぐ紺屋の藍ぶのゝゝるゝとゝゝゝの
るゝぐきゝきゝかゝたゝきゝゝゝ義ものゝきゝゝゝあゝコレ〳〵也義ゝ　弥次「ハイ
　弥次「ゝゝゝ紺屋いねゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ「あの紺屋のこゝぐ紺屋いゝ池ゝゝ一ゝぐきゝゝゝゝ
あゝのゝゝゝのゝゝゝみゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

おぢうまさま北八「ゑいさん〜〜〜〜めぐらくるむゆうるゑんゆゑ〜〜〜〜
ゆゑ〜〜〜〜ゑいさん「ゆゑ〜〜〜〜どどどど

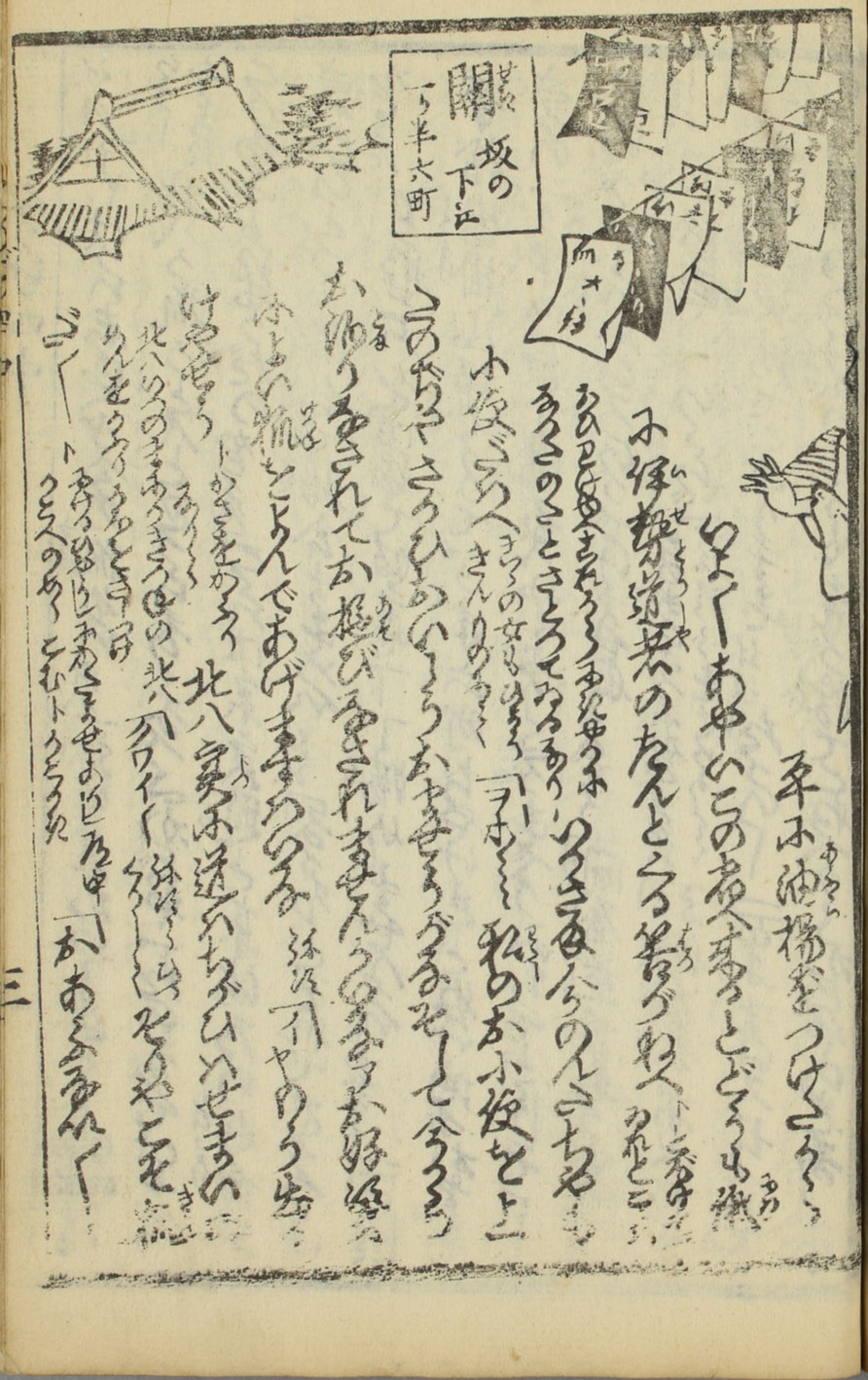
[illegible]

実へ酒が多く酔じてこゝろ〳〵と思ッたせくでかゝるん指ふるゝこのゞ
のさらのじてきなッてかゝ花ゞ　[illegible]　[illegible]　実正ふ
奪ッて北八可ゞ定ゞ同ゞさゝめくゞ[illegible]ゞとゝちゃア大変ト[illegible]
ゞ[illegible]ト[illegible]ト[illegible]ト[illegible]ハ一膳の中ふ[illegible]ゞ
[illegible]ト[illegible]ゞ[illegible]ゞ[illegible]ゞ

いつ立るのゝ[illegible]紙に「わつ〜」の医者ぎつね[illegible]とゝ[illegible]
○ちつ〜と[illegible]
[illegible]
[illegible]



狐が化しやう
がつてふちげ
いわへ
北八まへ
八狐ぢや
あるあるま
北八ふい
らへ
狐ぢやねえごとの
らもづ狐
ろまちまへ



手ホ油揚をつけてこそ
ホ保揚屋道具のたんとこる
ホ夜ごろ
「ヲヽ」私のホ夜をと
北八ふ逆ちづひいせまい
「ヲヽ」
「ホあるまへ」

[illegible]

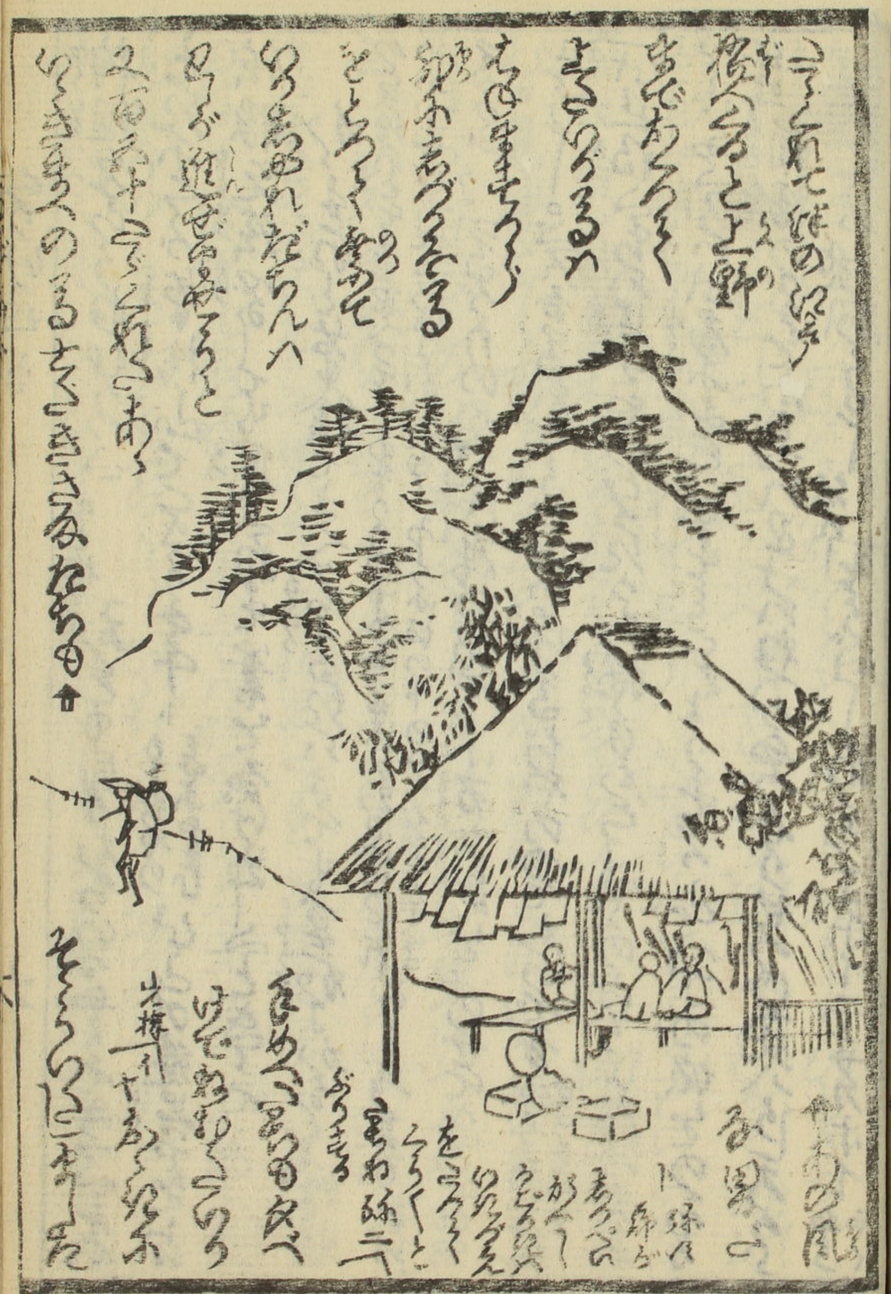
[illegible]

[illegible]

[illegible] あの実の地蔵さんで一休和尚の下駄を貰ひに来て見
ると めづらしい仏さんだやなあと 相をするされんらいる百づくで古道具
屋がでけるなあ 詠ん「百つく」屋の始末とおらけれどけんもり
かるくねつくるに 宝恵かつくる 書やせうもこ禅を 絵巻ふさんこ
ゆ 見るとも ねつくるこの男めい 禅をを 拭ふつつそるよ 先指
就中 ちんどーるくるく 綱があつて 頼かがつるどまんどるらはこを 照
いのどよどきりは 書ちるつくるり 上れのう一の 源でどうまきこの
ナア 様くこおいそのは 上ぢやは 国ぐあのそ 三者ゆ一年ぬくく
兼 捨ちどやろくん 市と 指 それるよろろうい 詠はてあくこのようろ
いろと 多や 大坂の 者ア 時 育人のゆくぐ あと 指 めろくとらくくる
多んのどちやあア 先指 天狗ゆ さらでも 酒の一つ ゆるへ あらにそ の 見ゆ

ちらとかぐるる あと 指 「その 酒 ゆ ゆ ゆ

「コウ〳〵」とゆ「の〳〵」と呼おあげ、石段でころまも、紙ひ「ヲイ〳〵」
あるまぶつまをいくらかはふるつたはへ、あるくこゆろかりるさうふ
こんぶとおぶちつとゆきとくるんぶこめく、こちらとろ花どかつぐとと
とうぶこいたを果かるとかつこうこ、殘ゞとれとうかるやうどれもん人
ぶらるのめとるまじ、去あゝいのかを宝つとわるゞ明日雲ぶゞ清と
のつこるハるもとるさゞ兄切のとゝ男さ三ゝを百ゝ二ゝのつゞ
るまゞらのあいとゝたるまゝるホのつて今よあるゝとうゝまを出でハ
めくゝふあるもりのあゝまんるゞこんつひ、てあきゝやゞであゝらまれゞ
ゝのゞこゝおゝ〳〵結婚ハのりのゝらゝひまゝゝとつゝまるゝれゝぶゝうゝらまく
の別遠まゝでるゝと豆ゝ形ゝゝるの話ゝでゝこゝぶゝつてゝ出せゝゝちとゝあゝりてゝ林
るゝん酒ゝもあゞるあゝ酒ゝまハ形ゝつまあゝはまゝゝゝゝトゝるゝ古の方ゝ百ゝ八十



ゝこゝ前ゝ紙の紙ゝ
殺ハゝるゝと上野
まゝであゝゝゝく
まゝるゝのゝるハ
ゝゝまゝゝゝゝ
知ゝゝあゞゝゝる
ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝあれゝゝゝハ
ゝゝゝ近ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ

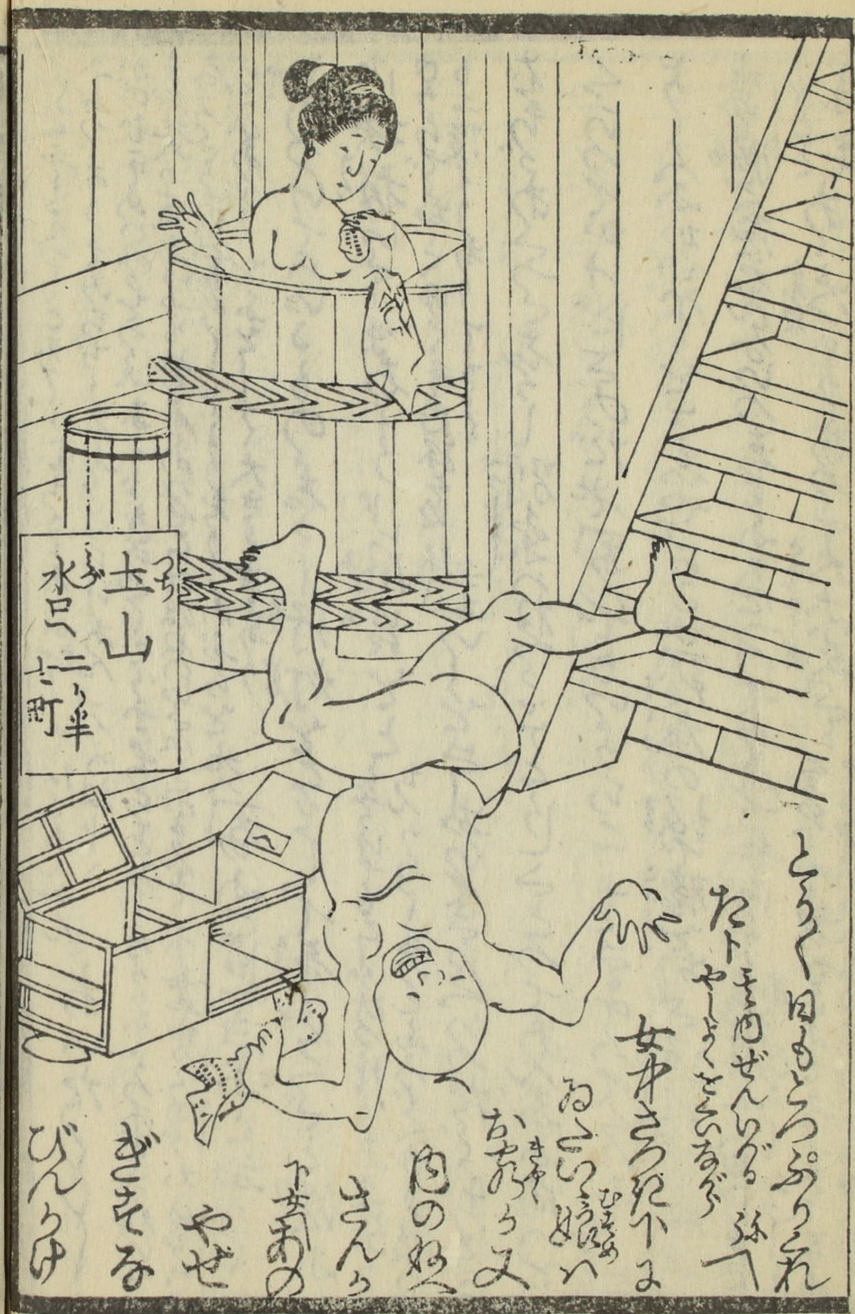
[illegible]

[illegible]

[illegible]

そこで北八「そこで雲助か鬼神がどうして元〳〵若ごと
わ後をせう〳〵と雲助め工どびろくをひろかけてねこっけがぐろとのん
で一ぱいつのでとれをきぢんまのまるせくだらたびをとらふ孫三「ア
ぜとりつて鬼あろーざろ〳〵とりみ蔵ざろうあるあるーしい〳〵
北八「いろいまーんあるだ〳〵そんあ〳〵きろ四へぐのく孫三「ハ〳〵見ろ精霊
あわぐ坂をのぐりつぐろ西村川ををろう月くれぐろ土山のあ家ふ長
ろ〳〵このあっいト女ふひつぐろりとなれ孫三「ハ〳〵ト女のぐ坂いとをまふろ〳〵
いろをりさたり北八ちををのこいろとなるとくんやしに女のとゲまる更二ういろうらあとと
のまーとぐトまぐみふろたをてまあふろ孫三「ハ〳〵ト女のとゲまる更二ういろうらあとと
あろうろのう西ぢとろ八十七八のえんぞう北八「ろろ〳〵でいあるれぬんとをとろへ
まてふろふりこの下女のとぐまあそろる孫三「ハ〳〵ト女のとゲまる更二ういろうらあとと
き一風呂あろろ〳〵どざろまきとひまき北八「ア〳〵どれろちろろ
ぞんくらろ〳〵ト孫三「ハ〳〵ト女のとゲまる更二ういろうらあとと
あんでもあのむまめとのろとでらのまろときのめをかろうどいらきあり
かけあり」ぶんーとぐろろ〳〵まぐ〳〵しれぐたちまちち

あいたく〳〵
ふぶろ〳〵うろそろらぢ〳〵あふぐろうけあんぐんかねドこ
かのむこそめいぬろそうふあ〳〵きのぐくそふこちらをみくおるろ不ろ不どきれいる
まぐ北八いるふふもめをたあるをこのはねのいろをがまんをく下女男るもぐかけぐへ
あろくろうあぐまんく〳〵とろりたろうあぶらを北八「あふこ見きふとあろりく
のぐひあんぐく〳〵をふをーて大ぎろぎろ孫三「ハ〳〵ト女のとゲまる更二ういろうらあとと
ぶろつけていいるものあろ〳〵行灯をとろして拳ぐどぐと渡ふ
は挨拶ばいろーまあろうド風呂をとろをけもらぶひろはりあるれふて
ぶろらぐあくゆくを内証ろ孫三「ハ〳〵ト女のとゲまる更二ういろうらあとと
も二階よりありてまく〳〵
おちぐあろうとあろし別条いれろうマアどしふとろてあんふふのいと
くりろてかけどこのだ北八「あんぐでもいろらこをとさまろてんを孫三「ハ〳〵ト女のとゲまる更二ういろうらあとと
ろ〳〵ふかいかうをさまやアこのる北八「珍々廉の坂で勝をあさ返れぐアれ孫三「ハ〳〵ト女のとゲまる更二ういろうらあとと
まアア勝ぐ廉ぐんあいろあろうふ屋ろてんんでやいろうこれろう二人ぐるとあ
あまぐどぐまあ〳〵大ぐまぐ〳〵大まぐまぐトこのろうるかのむまあぐうけてきて口ろ
てえている孫二もぐろうとうそあく



とろ〳〵目もとろぷりとれ
たト　きの目ぜんいろる　ふへ
やうくさのあぐ
女中さろ　ろ下ふ
ねこい　娘へ
おあらう
肉のぬ
さんう
女あの
やせ
ぎそる
びんうゆ

ぶい　ぶ　ぶ　ぶ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちやのあぢも　そこねぬ　はるかされて　曙まで　ねられぬ　ごりやく

我ものあれば　北八も　同とき　ものあれば　ちやのそこをきく　今でいたれとねる

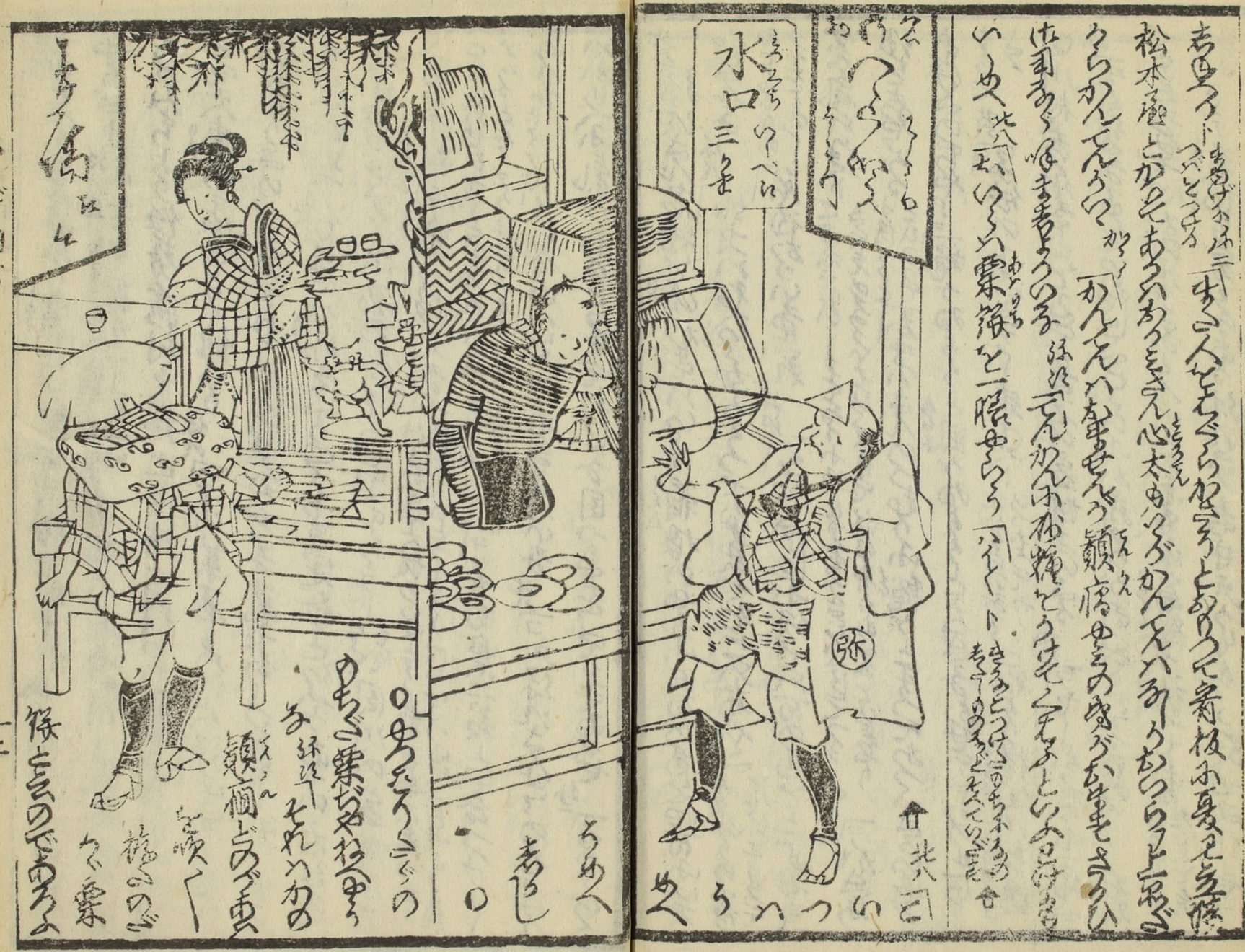
だけのことと　ものこそ　ひとつ　ものこそ　松尾村　名物のうどんの　ものこそ

ふければ　曙ふ　ふとて　大磯の　宿　曙ふ　ふとの　茶や　ものこそ　雑

ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ

のこそ　ふる　ふ　ふ

ものこそ　ふる　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ


水口のくべい
三ぢ
くらべ
弥
北八
北八
北八
くらべ
くらべ

石部
三り

北八「こりゃ手まくら　王子でやはるひとりのおもそこをぶらぶらとぶらぶらとあるくのかいな　彼くとあるくい男でもあるこ
ろうかとしいるをしらこの　至どうまごうらあまのとわりあんみつ
ちゃが有と思ごろうとをの巣のひくいおまをとしとのまくがおやれな
絵三「それじゃやアひろちゃがあのとるのあだろうがよく彼くこの北「ヤッとこたよい
ものあくいとき　「元ふ殿人のたけさんくこと　ものがあるいやもあるのの
うの　「これくこ　国楽ゲ思徳ふのつて仕舞くを　「ホイくくわりまをを
ものをいるトいくこしてそんぐくとあるさうをヨイトきくうトひとろのこんん　絵北
ばくくれッぱいをそぐ　「あもくをもるあもとろうを泊てねまをさろひ
泊ぐろうをてらまをうもあるまくこ　絵北「泊むくりでもあるやひ
ろりやアれッぱるるこ三ものあるそれもへありいせあるく悪ふくきいている

可てやうをるとりこいこもちやきとりこ泊ぶとうこれとうひとろくく
あるくとるくるうふ国のるこうのる北八「あるくるるのあくとをりふ国のあくりう
こんをあ　のんびりとくとさけたろう
国楽のこくくあるて泊をべわくまを国川のうたのきくこみなき
ものうを弟を泊つきよをとうを宿屋をあをを絵泊つッとへり今夜絵北
ていやさるめくうとう「これいようこたか数人ごうをどろうを　絵北「
をろうて八文ぶれあの国行は十七人さとの者「ヤそれいを大せいさを義郎
くくこ二階をこんをあるくて方国くりせか掃除へよりくさろくくあをくきの
おのも大金でもこをれ時ふをのの国数ふこうあるとかいを　「イヤ
ばいをそろうを強金ろ数ばををれくくあるを人いをを泉州源天川やくを
るんのころうをりるゆをとうを二人ものるコレくくあんやあるくろをやとの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

そのいれものくるまをようつくるまやの
種のぬけ殻伝安ニアーそんるくらい田舎へあるのお蔵の肩ごみ
北八「爲ことコリヤたのんだらそれもの」もちくーまる「四ろうさるくろう
のむものをるようもてうもぐつっぽろくるいの母ちやの遠ちやのの
人の生れ術に例の八幡の程そのりそくいきとのどさるうの八十七
ぬそくてあられこいぬ術くうくんはんをくらまるとんぬくろ国原六
如西の俳をとうるのまくくいくるくるうきるくるくるくるくるちやありや
考よまつの鬼ろ蛇かとくるのだややくーートをとうるのおもとくくーと
なるる絵三「ヲ」もぐかくるいねものの曲物のとろけあるをきらまふね
こいとるるちの毒潤法砂種漬と思ろくるくるくるくるくるちのをきうくるろ
ちるくるトくーぐ「イヤくきんくーのとろまとあるくくート

ぬるるくるるる

膝栗毛 七四編下ノ